

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p> <p><b>日程第1 協議</b></p>	<p>それでは、これより令和2年度第7回臨時教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日は、教育長・教育委員5人が出席しているため、この会議は成立しております。</p> <p>会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、会議規則第14条第2項の規定により、出川 委員と遠藤とします。</p>
<p>・協議 令和3年度（2021年度）使用中学校教科用図書採択について（理科・歴史・音楽（一般）・音楽（器楽合奏））</p>	
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>苫野委員においては、ご本人より、今回の採択に関わる発行者の小学校教科用図書の編集委員をしているとの申し入れがありました。それを受けて教育委員会会議で協議した結果、教科書採択における公正性・透明性を確保するため、苫野委員は、教科用図書の採択の協議及び議事に参加しないことを確認し、欠席しています。</p> <p>それでは、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>廣瀬泰幸 副所長</p>	<p>協議1 について説明します。令和3年度から中学校で使用する教科書全16種目の採択をお願いします。本日は、そのうち「理科」「歴史」「音楽（一般）」「音楽（器楽合奏）」についてご協議をお願いします。</p> <p>まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>まず、「理科」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。</p> <p>《橋爪大輔 研究記録員 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明します。</p> <p>《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議に入ります。</p> <p>プレゼンの最初に全体の比較をしてもらって分かりやすくよかったと思います。一つ質問ですが、生徒の実態のところ、基礎より応用の方ができているということから、基礎的な定着が課題だという報告があったかと思いますが、基礎が定着していないのに応用ができるというのはどういうことですか。なぜなのか説明してもらっていいですか。</p>
<p>野田寛樹 研究員代表</p>	<p>全国との比較をしています。全体的には基礎的な問題ができていますが、全国と比べると応用の方ができています。考える場面を授業の中で多く設定していたので、応用に関する数字が全国に比べて高かったのではないかと</p>

		と考えています。これから探究活動を進めていくことで応用の力も高くなっていく、そのような授業改善を進めていきたいと考えています。これまでも考える授業を進めてきたので、基礎ができていなくて応用ができていくというよりも、考える場面を多くとってきた結果ではないかと考えています。
遠藤洋路	教育長	基礎がもっとできた方が良いという問題意識は、それで良いのでしょうか。
野田寛樹	研究員代表	生徒全てが学習の主体者となって、探究の中で内容が分かって理解していくために、十分な基礎を基にして応用力を高めることを目指しています。基礎を基にして応用力を高めていくスパイラル的な構図を目指して取り組んでいきたいと思っています。
遠藤洋路	教育長	今よりも基礎がもっとできれば、応用ももっと伸びると。分かりました。
西山忠男	委員	観点の2番目の化学反応のところですが、この実験は実際各校で行うのですか。
野田寛樹	研究員代表	実施します。
西山忠男	委員	流れとしては銅の酸化の実験を行って、その後マグネシウムを行っていくということでしょうか。
野田寛樹	研究員代表	銅の結果から学んだこと、それが、一般に通用するかということマグネシウムの実験で確かめていくというように進んでいきます。
西山忠男	委員	どの教科書も良くできていて、あまり差がないように思います。今日の評価は、絶対評価なのですか、相対評価なのですか。
野田寛樹	研究員代表	絶対評価です。
西山忠男	委員	続けて、もう1点いいですか。今日の説明にはなかったのですが、防災について、地震災害、火山災害、気象災害について、どの教科書も多少は書いてありますが、その点について、各社の特徴を教えてください。
野田寛樹	研究員代表	どの教科書も防災減災については、よく記載してあります。
西山忠男	委員	すみません。最後の採点表を見せてもらっていいですか。これですと、6番で評価されたということですか。
野田寛樹	研究員代表	そうです。観点6で比較しました。
西山忠男	委員	大日本、教育出版と啓林館は比較的優れていると判断してよろしいですか。
野田寛樹	研究員代表	そうです。

<p>泉薫子 委員</p>	<p>どの教科書も、深い学びが系統的に学べるようによく工夫されています。子どもたちが話し合ったり、自分の意見を発表したりする場面については、啓林館は仮説の場面でも見られて、工夫されているかなと感じるのですけれども、話し合い活動や意見を発表する視点で工夫されている教科書や、違いがあったら教えてください。</p>
<p>野田寛樹 研究員代表</p>	<p>啓林館は、計画を立てたり、振り返りがあったりします。他の教科書会社も大日本の「話し合ってみよう」だとか「考察をもとに考えてみよう」だとか、どの会社も必ず学習指導要領に対応した話し合い活動が盛り込まれています。一連の探究活動としてみた時に、見通しをもって計画を立てていく、そして振り返りの中で課題達成できたかどうか、次の学びにつながるかどうかを重視しました。どの教科書も対話活動は重視されていました。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>全体的感想から言わせてもらおうと、主体的、対話的で深い学びという観点からどの教科書もしっかり作りこまれていて素晴らしいです。その中で特徴的なことを3点だけ。1点目は、QRコードについて、啓林館は300個ほどのコンテンツがありましたが、QRコードの活用で特徴的な点を教えてください。2点目は、目次を見ると、教科書会社ごとに単元の順番が異なっていますが、教える先生たちは授業を進めていく上で、どうとらえているのでしょうか。もう1点は、啓林館の245頁に算数、数学との関連が書いてあり、珍しいと思いましたが、このような特徴は他の教科書会社にもあるのでしょうか。3点お願いします。</p>
<p>野田寛樹 研究員代表</p>	<p>QRコードは、啓林館はたくさん載っています。映像資料として活用できるし、啓林館に関しては学習のまとめの段階でもアクセスできることにより、1問1答式で学ぶことができます。授業で使えるのはもちろんですが、コロナ禍に対応するために家庭学習を進めたり、一人一人のペースに応じて進めたりできるのは有効だと思っています。配列に関しては、各学校で年間指導計画を作成しまして、理科室が重複しないように、学びが関連付けていけるように作成しています。そのため、各学校大きな差はありません。そのため、転校した生徒の場合も対応可能であります。啓林館、245頁のように小学校での学びとの関連はよく工夫されていると思います。ただ、他の教科書も今まで学んだことを示してありますが、要所要所で示してあるのは啓林館の良いところであります。啓林館には巻末にこれまでに学んだことが提示してあるので、有効であり小学校での学びを確かめられると考えられます。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>2点質問があります。どの教科書もカラフルで読みやすいと思ったのですけれども、中学生になると理科が苦手な子が出てくると思うので、苦手な子にもわかりやすい工夫があるところを教えてください。また、理科で学んだことを、興味・関心をもって、自分も学んでいこうと思ったり、広がっていったりできるようなことを意識して書かれている教科書があれば教えてください。</p>
<p>野田寛樹 研究員代表</p>	<p>啓林館の「探究の扉を開いてみよう」という箇所では、QRコードをかざすと、地形のすばらしさなどダイジェスト版で出てきます。これは、興味・</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>関心が広がるものであります。現在の子どもには映像の力が大きいと思うので、子どもたちが興味・関心をもって学んでくれると思います。授業でも、そういうところを大切にしていきたいです。理科を学んだ有用性やこれから生かしていきたいということは、どの教科書会社も工夫されてきました。働く人へのインタビューなどをたくさん取り入れてあり、日常生活との関わりも工夫してありました。子どもたちが将来理科を目指す、生活で生かしていけるという点ではどの教科書も評価できていると思っています。</p> <p>先ほどの説明で、二つ目の観点はよく分かりました。仮説を立ててから実験を行う構成になっているかということと、仮説を立てるにあたって、どのように興味をひくかということで、なかなか大事なところかと思っていて。例えば、大日本では、仮説を立てるところがなくて、結果から考えようという流れになっていて、私も実験はそういうものだと思っていました。実験は、仮説を検証するためにあるものだというのを、大学に入って理系の人と話していて初めて知りました。そういう点では、小さい時から身に付けておくことが大切だと思ったので、そういう意味で、学図、教出、啓林館は優れていると感じました。観点1の比較が私には分かりにくかったのですけれども、○と◎をつけたポイントをもう一度教えてください。</p>
<p>野田寛樹 研究員代表</p>	<p>観点1については、東書は、活用する場面があったので、◎としました。大日本に関しては、考察の後の振り返りが無いところで、○としました。学図に関しては、たくさんの子どもたちでの会話で考察をして、どのようなことが明らかになったのだろうか、または実験のデータの失敗例から学ぶという点など、実験や検証そのものの振り返りができているから◎としました。教出では、振り返りをしたり対話したりする場面が見られなかったので、○としました。啓林館では、活用する場面も振り返りもあったので、◎としました。私たちが大切にしたのは、この実験はどうだったのか、上手くいったのか、考察できたのかという振り返りや、なぜ上手くいかなかったのかを考えることで、次の実験へのつながりを重視しました。ただ、どの教科書もよく工夫してありました。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>力のところは、とても混乱しやすいところです。重さと質量、そして重力のところは、生徒には非常に分かりにくいと思います。啓林館は、重さというものについてきちんと記述されています。他の教科書は重力と質量という捉え方で、分かりにくいです。この点を考えると、啓林館は良いという印象を持っています。</p>
<p>野田寛樹 研究員代表</p>	<p>まずは、体感させます。物を持ち上げる、ぶら下げるなど、手で感じながら、そして前の方のページとリンクしながら啓林館は進めていける工夫が素晴らしいと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>他に意見はありませんか。ないので、以上で「理科」について終了します。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>続いて、「歴史」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明します。</p>

<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>《工藤照彦 研究記録員説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明します。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。以上でございます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議に入ります。まず、私から。 最初に教科書の特色の説明、展示会の関心が高いところの説明は非常に分かりやすかったと思います。それから、中身の説明もよく分かりました。1点、最初に伺いたいのは、第二次世界大戦について分量の説明がありましたが、そもそも授業時数の中で第二次世界大戦については何割を占めているのでしょうか。そこを伺わないと示された分量が、多いか少ないかが分かりません。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>まず、第二次世界大戦については学習指導要領解説の「第二次世界大戦と人類への惨禍」の中でそのねらいが書いてあります。ここに関しては、かなりボリュームの差はありますが、現行の東京書籍については世界恐慌から述べますと、目次をご覧ください。3頁になります。戦争の終結までおよそ9時間から10時間の取扱いになります。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>総時間数が何時間で、そのうちの10時間なんですか。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>歴史の総時間数は135時間で、1年生2年生で95時間、3年生で40時間です。こちらの内容は3年生での40時間で扱う場面になります。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>いや、歴史全部でいうと。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>歴史全部でいうと135時間のうちの10時間ぐらいです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>実際、学校で扱うのもそのくらいの時間配分だということですね。 はい、わかりました。ありがとうございました。 では、ご意見、ご質問はありませんか。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>最初に皇国史観、共産主義の説明をしていただきましたが、一般からあった批判は当てはまらないというふうな理解でよろしいですか。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>お答えします。こちらが文部科学省の教科書検定基準になります。政治宗教の扱いについては、「教育基本法第14条及び第15条の規定に照らし適切かつ公正であること」とあります。また、西山委員が言われた部分については「(5) 特定の事項、事象、分野などに偏ることなく、全体として調和がとれていること」「(6) 特定の事柄を特別に強調し過ぎていたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げていたりするところはないこと」とございます。各社、写真の量や頁数は差異があります。今回、検定を経た教科</p>

<p>西山忠男 委員</p>	<p>書7社以外に検定申請したが通っていない教科書が2社あります。そのことからすると、文科省の検定を経た教科書であるので、範囲内であると判断しています。</p> <p>別の意見ですけど、確かに帝国と東書は優れていると思います。ただ山川も捨てがたいと私は思っています。ご説明のように課題と検証の対応はできていないけれども、それは教師のほうで指導上できることで、そこにあまりこだわらないでいいんじゃないかという気がしたんです。説明で山川は難しいとおっしゃったが、深く内容を掘り下げてあり、資料も豊富です。山川は昔から歴史教科書として定評がある教科書会社でもあります。難しいと説明があったことがよく理解できませんでした。分量が多くて、内容が豊富で生徒が困る、という意味ですかね。</p>
<p>米村均 研究員代表</p>	<p>失礼します。確かに山川の教科書を見ていきます際に、世界史の部分で他の6社にない歴史的用語や人物が登場する場面が非常に多いという意見が、研究員の中でも多数ありました。そして、研究員の中で一人、高等学校での授業経験者もいましたが、内容としては今まで中学校で教えてこなかった高校生レベルのものが多いという意見がでました。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>高校では全員が日本史・世界史を履修するわけではないんですよ。そういう意味では、少し踏み込んだ内容があっても、中学校だけで勉強を終えてしまう生徒がいることを考えると、そういう内容でも良いのではなかったんですよ。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>歴史を大観するという観点から、教科書によっては年表が各頁に記されていて良いと思います。巻末に世界との比較をした年表もあり、ここを勉強していることが分かります。一つ興味があったのは領土問題についてどのような記載があるのか興味を持って見てみましたが、いくつかの教科書には歴史的な経緯が丁寧に記載されています。今は、いろいろな日本の領土に対する問題が出てきているので、子どもたちにもきちんとした歴史認識を持ってほしいという観点から、非常に詳しく書いてあった教科書が何社かあったのは良かったと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>具体的にどの会社ですか。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>一つは帝国書院です。それから、東書。それから、山川。この3社ですが、特に山川は2頁ぐらい詳しく書かれていて目につきました。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>どの教科書もバランスが良い内容ではあったかと思いますが、1年生が少し歴史の学力が平均より下がっているということですけど、歴史に入り、興味をもつ導入がなかなか難しいのではないのでしょうか。今回、歴史的な見方・考え方が、各章の始めにかなり詳しく書いてあります。各社で見比べてみましたが、東書、帝国、教出は少し細かすぎるのかなと思います。その点について、何か気付き、導入部分の取り扱いの違いについて教えてください。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>実際あのデータは小学校6年生のものです。歴史学習について、小学校</p>

	<p>と中学校の大きな違いは、小学校は人物史、中学校は通史であるということです。中学校に上がってきたときに歴史、地理、公民と3つの分野に分かれ、特に歴史や地理は暗記という印象があります。実際は、たくさんの社会的事象を知識・理解として得るだけではなく、見方・考え方を生かして思考することが大切です。そのため、導入でイラストをもってくる、実物資料をもってくるなど、現場では工夫して実施しています。地理的な見方・考え方、公民的な見方・考え方は、実際は生徒が保有しているもので、それを働かせる学習過程の工夫というところで、授業者は教材研究を行っています。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>会社の間で教科書の違いはありますか。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>各社の比較からすると、東書は丁寧な工夫が見られます。8～13頁をご覧ください。歴史的学習のスタートの段階で大観することの大切さあたりについて、きちんとおさえています。教出は7～9頁に「歴史にアプローチ」、帝国は12頁に「歴史的な見方考え方を働かせよう」があります。ページ数や丁寧さからいくと、スローステップで子どもたちに分かりやすいアプローチがあるのが東書であります。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>感想ですが、先ほど小屋松委員も言われましたが、今どこを勉強しているのかが分かる工夫として、右端に年表が載っているのが子どもたちには学びやすいと感じました。中身は詳細だが、どこを学んでいるのかが分からないということで、分かるのが日文、帝国が右端にあって分かりやすいと思いました。</p> <p>もう一つは、資料がたくさん掲載されていますが、タブレットがあるので映像のコンテンツの準備をどのようにしてあるのか、聞かせてください。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>時代や年代のスケールについては、各社工夫があります。ご指摘があったように、これまで、今、これからにつながっています。研究員の方でも振り返りなどで使えるという意見がありました。</p> <p>デジタルコンテンツについてご説明いたします。各社、今回の検定からデジタルコンテンツを意識した構成となっています。東書については114か所あります。5頁を開いてください。左下にDマークがあり、これがあるところに関してはQRコードを読み取ると、関連するコンテンツが広がっていきます。教出は46か所あります。使いやすさとしては、章ごとになっていることです。中身は充実していますが、数は東書と比べて約半分です。帝国は127か所あります。数的には東書を上回っていますが、内容は左側の下にあるNHK for Schoolも含めて127です。山川は11か所あります。NHK for Schoolでは玉音放送も聞けます。日文は14か所のデジタルコンテンツと連携しています。育鵬社と学び舎はありません。スクリーンに出された評価は、相対的に量について表記をしているものです。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>自分たちの時代の経験からすると、古代からずっと歴史を学び、結果的に近代が消化できずに終わるということがありました。時間から行くと戦後は期間が短い、時代の変化が劇的で目まぐるしく変わっています。確かに短い期間ではありますが、こちらの時間をとっていただきたいと思います。学校現場ではどうですか。</p>

<p>米村均 研究員代表</p>	<p>先ほど歴史の総時数の話が出ましたが、以前は1、2年生の授業時数がそれぞれ105時間ずつ、3年生の授業時数が70時間でありました。しかし、現在は3年生の授業時数が140時間となり、また歴史が3分野の中で最も多い時間数が割かれています。公民へのつなぎということもしっかり現場でも意識しながら、近代から現代への流れを伝えるということ、また発達段階を考えると、3年生になってからの学習ということで、考える力もついてきていると思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>最初の各教科書の特徴の時に、帝国についてイラストは多いが、実物資料が少ないという説明がありましたが、教科書を見る限り、そのような気はしないんですが、どの辺がそうなんですか。</p>
<p>米村均 研究員代表</p>	<p>帝国の特徴ですが、章の見開きのところで様々な場面を想定したイラストがあり、それに子どもたちが気づいていく工夫がされています。例えば、古代とか出版社が意図する写真とかがないのでイラストが良いと思いますが、近代や現代に行く中でも、章の扉の絵あたりはイラストが使われています。実際にそういう、子どもたちに考えさせるものが写真として残っていないところもありますが、そのあたりがイラストの多さとして研究員が感じたところです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>実物の資料が少ないというのはそれぞれのページを見るかぎりではそう思わないんですけど、最初の扉がイラストであるということを言われているのですか。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>帝国の242～243頁の扉絵、246頁のジオラマ風の資料は、生徒からすると親しみがわきやすいです。しかし、この時代になると、できる限り実物資料あたりが良いのではないかという意見が研究員から出ました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>つまり、実物資料が少ないということは、章の扉の絵を言っているということですか。教科書の中身は写真資料で出ていますけど。</p>
<p>工藤照彦 研究記録員</p>	<p>その通りです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>他に、よろしいですか。他にないようでしたら、以上で「歴史」について終了します。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>続いて、「音楽一般」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明します。</p> <p>《古瀬英子 研究記録員 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明します。</p> <p>《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>

岩本晃代 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	それでは、協議に入ります。意見・質問はありませんか。
西山忠男 委員	長唄のページを比較してみました。教育出版のページを見ても歌うことができません。教芸の方は、旋律の抑揚が図に示されているから素人でも歌えそうな気がします。全体的に見て教芸の方が優れているような印象をもちます。ただ、デジタルコンテンツに関しては教育出版の方が優れているという感じがしましたが、コンテンツはどれくらい重要視されるのですか。
井出弘昭 研究員代表	教芸は、目で見えてわかりやすく直感的に子供たちがとらえやすいです。感覚的にとらえやすいという点、UDの視点で確かに教育出版のコンテンツは優れていると感じています。教出はもう一度繰り返し見たい時や、学びたいと意欲が向いたときにいつでも見れるという点が優れており、デジタルコンテンツ自体も自社独自で作成されているものが多いです。教芸は丁寧にリンクされており、演者個人のページに飛んで詳しい情報を得ることができるなど、工夫が凝らされています。また、そのページは随時更新され、常に新しい情報を見ることができるという点でもよいです。
西山忠男 委員	教育出版の方がコンテンツ数が多かったですが、その点はどうですか。
井出弘昭 研究員代表	デジタルコンテンツは、小刻みに作られています。ワークシートなども同様です。困ったときにコンテンツの数が多いのは有効であると思います。それぞれの会社がねらっているところが違っていますが、2社を比較していくと教育出版の方がコンテンツ数が多いのは事実です。
古瀬英子 研究記録員	研究員から出た意見として、コンテンツの量は教出の方が多く、個人の学びに関しては効果的だということがあげられました。ただ、音楽的な深い学びをさせていく点ではコンテンツだけでは図れないところもあります。各観点の○や◎の評価においては、より深い学びをさせるために、という視点を重視してつけております。デジタルコンテンツのみの比較では教出の方が優れている印象がありますが、各観点において教科書の内容とデジタルコンテンツを絡めて評価した結果、ご覧のように教芸の方が◎の数が多くなっています。
小屋松徹彦 委員	同じく長唄のところを比較してみたが、教芸の方が行程がわかりやすいと思います。それでも実際に歌うのは難しいと思うが、その際、有効なのがデジタルコンテンツだろうと思いました。スピーディーにつながることができるという点では教芸の方がそれにふさわしいと思いましたかどうでしょうか。
古瀬英子 研究記録員	学びリンクのコンテンツを開くには目次にQRコードが記載されています。例えば、歌舞伎の題材には5つの動画があり、その部分を開くと動画が始まるという流れになっています。手順としては少し多いのが教出です。

	<p>実際にご覧いただきたいと思います。教芸は、QRコードからいきなり動画につながることができます。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>コンテンツにたどり着く方法を見ると、教芸の方が早いと感じました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>目次を見ると、教芸の方が見やすいと感じました。教出は左と右で別々になっていますが、わかりにくいです。全体の構成も教芸がわかりやすいです。教出は内容の順番等もまとまっていらないように感じます。生徒自身が音楽全体の中で、現在何を学んでいるのか、わかりやすさという点では教芸の方がいいと感じました。教出の38頁、教芸の55頁を見ると、教芸は歌舞伎があつて勸進帳があります。他の部分に関しても同じような内容がまとまって掲載してあります。教出はまとまりが今一つで、ばらばらになっている感じがしました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>他に意見はありませんか。ないので、以上で「音楽一般」について終了します。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>続いて、「音楽（器楽合奏）」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明します。</p>
	<p>《古瀬英子 研究記録員 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明します。</p>
	<p>《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議に入ります。意見・質問はありませんか。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>確認です。音楽一般と器楽で仮に異なる会社を採用してもかまいませんか。</p>
<p>井出弘昭 研究員代表</p>	<p>過去にもそのような事例がありました。前は、一般が教出、器楽が教芸です。6年前になります。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>同一会社が教えやすいということはないという理解でよろしいですか。</p>
<p>井出弘昭 研究員代表</p>	<p>教科書の作り方、考え方が一貫しているので、学ぶことは同じですが、同一会社だと同じスタイルで学べるメリットはあります。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>感想ですが、ご報告いただいたように、リコーダー曲の奏法とか曲想とかを勉強させる時に、深い学びになるように曲想を考えたり、弾き方の方法を教えたり、教芸は非常に工夫がされていると感じました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>感想を言いますと、西山委員の意見と関連しますが、教出と教芸を比べ</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>ると、音楽と器楽の統一感が教芸にはあります。表紙をめくったところの つくりやデザインが、教出は全然違います。目次のつくりも教芸は似てい ますが、教出は全然違います。なぜ、こうなっているかという、裏表紙に 書いてある執筆者は、教芸は同じメンバー、教出は全然違うメンバーにな っています。監修は同じですが、実際の執筆者は違います。実質全然違う教 科書だといっていいと思います。教芸は同じ人が作っている教科書です。 そういう意味では教芸は音楽と器楽両方するなら、学びやすいのではない かと思います。</p> <p>他に意見はありませんか。ないので、以上で「音楽（器楽合奏）」につい て終了します。</p> <p>以上で本日の協議を終了します。</p>
-----------------	---